

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成27年(2015)8月10日

No. 92

発行 高津啓洋

米国籍ボランティアの活動



7月6日から21日まで、アメリカ人を中心に世界11か国から37名のボランティア隊が、当会のレダ植樹園開墾の支援と隣村のエスペラ

ンサ村での学校修復の様々な事業を支援しました。

米国に国際事務局を置くUniversal Peace Federation (UPF)を中心に当会の青年も合同して参加しました。

レダでの植樹支援は、荒れ地の整理で、つる草などを取り除き、穴を掘って肥料を混ぜて丁寧に、整地されたところにニームの木を植樹していきました。

先住民の村エスペランサでは、校



舎の修理、教室の机20台の贈呈、そして生徒たちと文化・スポーツ交流、当会が植樹に力を入れているニームの植樹などで奉仕しました。3年前の奉仕隊が植樹した木々は既に5メートルを越えるほどに成長していました。



夏季環境セミナーを開催



は、地球規模で解決しないといけない理由と深刻さを知れたなどの感想もありました。

昨年の青年奉仕隊員として活動した和田泰徳さんのプレゼンテーションも好評でした。

講師陣を囲んでグループごとに懇親会が持たれ、植樹体験者からの質疑応答と活発な意見交換がなされました。次回のセミナーは11月21日に予定しています。

8月1日、川崎市の大山街道ふるさと館において第8回の一日研修会を、開催し、55名が参加しました。

プログラムは、映像による活動の概要と報告、地球の緑を守る会の戸石文夫事務局長による「ここまで来た！地球環境問題」の話に、公害問題は一つ一つ克服されてきましたが、国を越えた環境問題

